

# 公開研究会 ビデオの文化資源学

2019年度、新潟大学地域映像アーカイブ研究センターは連続的な研究会を主催した。メディア・スタディーズとメディア・アーカイブの相関性を問う第1弾、メディア・アーキビストの経験知を問う第2弾、地域メディア史の可能性を問う第3弾に続き、第4弾『ビデオの文化資源学』はビデオを巡るメディア・スタディーズとメディア・アーカイブの共闘の可能性を問いたい。

1970年代以後のビデオ機器の家庭への普及は、動画像を撮影する可能性に加え、フィルム以前は現像所などの専門的な業者に限られたマスの映像の複製、並びに再編集の可能性を大衆化した点に、20世紀の映像文化史における重要性を認め得る。デジタル時代のデータベース的な想像力を歴史化するには、ビデオへの関心は不可避である。しかし同時に、メディア・スタディーズやメディア・アーカイブの現況を見渡すと、フィルムとデジタルの狭間に位置するビデオの研究は後手に回りがちである。今回の機会を通じ、ビデオを巡る研究に新たな一石を投じたい。

日 時：2020年2月16日（日）14時～17時（開場：13時30分）

会 場：大東文化会館K404教室（最寄駅：東武東上線東武練馬駅）

定 員：45名（無料／申込不要）

報 告：林田真心子（福岡女学院大学）、飯田 豊（立命館大学）

「フィルムからENGへ：

ニュース生産における送り手の文化と慣習を巡る人類学的研究」

近藤 和都（大東文化大学）

「アーカイブとしてのレンタルビデオ店：

ロードサイド型大規模店舗への系譜を辿る」

羽鳥 隆英（新潟大学）

「テレビ録画研究の可能性：『中間的』映像群を巡る調査を起点に」

コメンテーター：永田 大輔（明星大学等）

主 催：新潟大学地域映像アーカイブ研究センター

お問合せ：羽鳥隆英（[hatori@human.niigata-u.ac.jp](mailto:hatori@human.niigata-u.ac.jp)）

共 催：モノーメディア研究会